
フレグランス

立砂いびき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
フレグランス

【Nコード】
N1267V

【作者名】
立砂いびき

【あらすじ】
僕がいて君がいるから僕がいて君がいる

石鹸の匂いがした。

姉貴が床に座り込みながら首を横に振っている。

買い物かごをいっぱいにした主婦達が、チラッと見ては何もなかった様に通り過ぎてゆく。

姉貴は口をとがらせ、おふくろにパツツンにされた前髪を揺らし続けた。

両手に握ったおもちゃのシールが二つ。

怒鳴りつけられ、しぶしぶ一つを返しに行く。

目に涙を溜め戻ってきた姉貴は、おふくろに頭を撫でてもらっていた。

清香から香るシャンプーの匂いは殺人的だ。

甘く切なく癒され、全てがどうでもよくなって欲求だけが残る、そんな誘惑。

負けるわけにはゆかない。

そう願えば願うほど、清香は茶色く染めた長い髪を振り続ける。

「わかんない」

俺の部屋で、この場所で、この香りを嗅ぐのは何度めか。

三回目のデートで初めて清香の小さな体を抱いた。

壊れてしまいそうで躊躇したが、乱暴に扱った。

壊れやしない。

彼氏とどんな事をしているのか知っていたから。

「わかんない」

甘い匂いがさらに充満する。

告白し、彼氏と別れる事を望んだ俺に対するオーバーアクション。でもね、一つに決めなきゃならない。

二つは同時に手に入らない。

欲求に耐えながら、別れなければ別れると言った俺の言葉に髪揺れが止まった。

「・・・わかった、彼氏と別れる」

目に涙を溜め、見上げたその顔はこの上なく愛しい。良い子だ。

頭を撫でてあげるよ。

でも知ってるんだ。

姉貴は、シールを戻すフリしてポケットへ入れた。

切なかつたよ。

ズルイと思った。

おふくろは姉貴を信じたんだ。

清香を抱きながら確信する。

信じる者は救われる。

間違いない。

信じた者には信じた全てしかないから。

疑いようがないから。

確証のない苦しみを味わなくてすむから。

だから俺は清香を信じる。

清香も俺を信じてくれ。

幸せになろう。

あの時、俺のポケットにシールが三枚入っていたいようとも。

(後書き)

初めて描きました！

評価・感想よろしくです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1267v/>

フレグランス

2011年10月9日11時14分発行